

日光市の文化会館の現状と方向性について

くわしくは 資産経営課 公共施設マネジメント係 ☎0288-21-5132

今市、日光、藤原の3つの文化会館は、耐震基準を満たしていない施設があることや老朽化が進んでいることなど、多くの課題を抱えています。このため、将来の財政負担を考慮し、集約の方法について1館に集約することを前提に、関係者の皆さんとともに検討してきました。

検討の結果、未耐震という理由から、日光総合会館は廃止、藤原総合文化会館は休止としたところです。

今年度から文化会館の今後のあり方について検討を始めるため、これまでの取り組みやこれからの検討方法についてお知らせします。

●日光総合会館について

日光地域の関係団体などで組織された「日光総合会館検討専門部会」において、5回にわたって検討しました。その結果、令和元年11月25日に市に対して、「日光総合会館のあり方並びに跡地活用についての提言書」が提出されました。

<提言書の主な内容>

- ・「ホール、集会機能」などを持つ施設の整備
- ・駐車場機能の拡充 など



検討専門部会での協議の様子

市は、この提言書の内容を踏まえ、令和3年3月末で施設を廃止し、民間活力の導入も視野に入れた検討を行ってきました。

しかし、新型コロナウイルス感染症に伴う経済活動の縮小により民間事業者の参入が難しく、施設整備は新型コロナウイルス感染症の収束の状況を見て再検討を行うこととしました。このため、まずは日光総合会館を解体し、駐車場部分については、継続して運営していく予定です。

令和4年度に解体のための設計を実施し、令和5年度のうちに建物の解体完了を目指します。そして、駐車場機能を拡充し、繁忙期の渋滞緩和につなげたいと考えています。

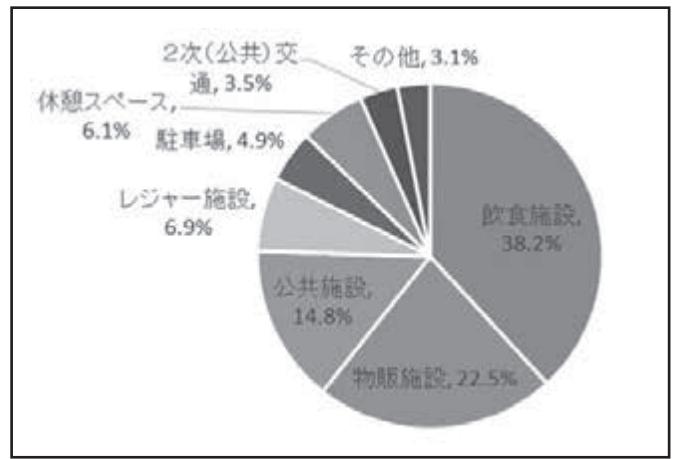
なお、提言にあった「ホール、集会機能」などを持つ施設の整備については、令和4年度末を目途にその方向性を定めていきます。

●藤原総合文化会館について

藤原総合文化会館は、耐震性の問題から令和2年3月末で施設の利用を休止し、藤原地域の関係団体などで組織された「検討専門部会」や「跡地利活用に関する勉強会」において、民間活力の導入も視野に入れた検討を行っています。

検討を進める中で、令和3年度には、観光客を対象とした「鬼怒川温泉駅前のあり方に関するアンケート」を実施したところです。

今後は、アンケートの結果を参考にしながら、周辺の影響に配慮し、跡地利活用について継続して協議していく予定です。



観光客約1,000人からのアンケートの集計結果
問:鬼怒川温泉(特に駅前)に足りないと感じたものはありますか?

●今市文化会館について

今市文化会館は、耐震基準を満たしていることや利用状況の観点から、文化会館の方針が定まるまで暫定的に使用しています。

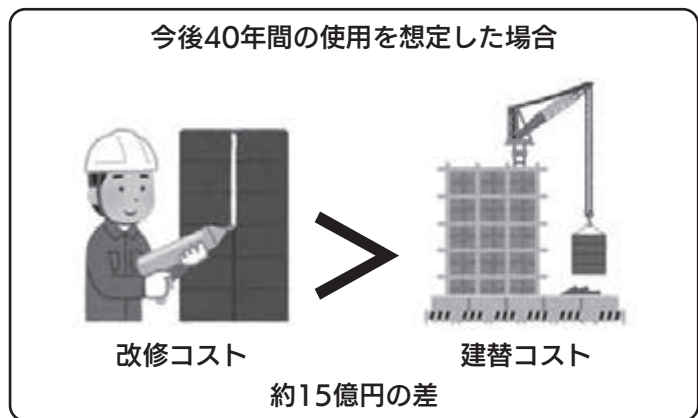
しかしながら、築45年を超え、老朽化もかなり進んでいるため、大規模な改修が必要な状況です。

大規模改修し使い続ける改修コストと、新たに建て替えて利用する建替コストを比較すると、改修コストのほうが建替コストに比べ、大きいことがわかりました。

このため、今市文化会館の今後については、市全体の文化会館のあり方を検討する中で、方向性を定めていきます。



老朽化して錆び付いた窓



●今後の方向性について

厳しい財政状況の中、文化会館の集約を検討するにあたり、まずは市全体の文化会館のあり方や方向性を検討するため、市民委員会を設置することとしました。

委員会では市民の皆さんにご意見をお聞きし、今後の方向性を早急に定めていきます。

新たに造るべきか?

いまある施設を生かすべきか?

造る場合は、

いつまでに造るのか?

どこに造るのか?

どのような施設にするのか?

※委員会を構成する委員は、各関係団体のほか、公募でも募集します。詳しくは27ページをご覧ください